

一般会計予算に対する討論

令和2年度一般会計予算は、3月定例会最終日に可決されました。この議決に先立ち、同予算に対する討論が行われ、4人の議員から賛成意見が、3人の議員から反対意見がありました。その概要は次のとおりです。

賛成

●令和2年度に実施する、新規・拡充事業から意見を述べ

る。住民参加型移動支援事業と福祉有償運送団体への支援では、高齢者の外出や移動を支援するため、地域の自主的、自立的な団体が行う活動に助成を行うほか、団体が継続して活動できるよう支援する。移動支援を通じ、地域住民の連帯意識が生まれ、地域の絆が強まることを期待する。学習用ICT環境の整備では、児童・生徒に1人1台パソコンを配備し、情報活用能力の育成を図る。事業の円滑な実施に向け、学校と連携するよう要望する。災害対策では、避難所のマンホールトイレの整備をはじめ、被災状況確認用ドローンの導入や災害対策用井戸の活用を行い、対策が着実に推進されるものと期待する。地域産業の活性化に向けて整備する道の駅や市のシンボル公園となる光綾公園は、本市のランドマーク施設となるため、効果を最大限に引き上げる取り組みに期待する。(仮称)綾瀬スマートインターチェンジ開通後は、交通機能を有効活用し、産業の活性化と地域のブランド化により、本市の魅力が最大限に発揮されるよう期待する。各事業を着実に推進し、人口減少社会、超高齢社会で

●市長は施政方針で、子どもから高齢者、障がいの有無、性別や国籍の違いを問わず、共に生き、健やかに安心して暮らせる、思いやりと活力のあるまちを目指すとした。移動手段がなく、外出機会が減っている高齢者が増える中、住民の助け合いによる移動・外出支援を担う団体を支援する。他の交通手段にも目配りし、どこでも安心して暮らせるよう期待する。障がいがある方などの移動手段を提供する福祉有償運送団体への補助事業も、移動の選択肢が増え、利便性が向上するため、継続的支援を願う。多文化共生支援は、外国人住民の言葉の壁の解消に向け、くらしの便利帳の多言語デジタルブック化や公共施設での案内表示の充実などに取り組む。外国人住民が住み続けたいと思うまちづくりを期待する。子ども・女性政策は、次期・あやせ男女共同参画プラン策定を通じ、全庁的な意識の醸成を図り、ソフト・ハード両面を充実させ、女性が安心して働き、活躍できる環境づくりを願う。災害対策は、災害対策用井戸の飲料水指定箇所の拡大を図り、公助だけでなく、自助・共助により飲料水を確保する取

り組みの推進を評価する。1期4年の集大成として、活力と魅力に満ちた綾瀬をつくることを実現する予算であると評価し、本予算に賛成する。(公明党)

●令和2年度予算は、消防本部庁舎の建設事業や中学校空調機能復旧工事の完了などにより、前年度に比べ2.7%の減となった。予算の柱である5つの政策に沿って意見を述べる。都市づくりでは、道の駅整備の目標を見定め、専門家や市民の声を聞き、綾瀬ならではの道の駅にするよう要望する。産業の活性化では、中小企業に生産管理システム導入に係る経費を補助する。労働生産性の向上を促進し、さらなる地域経済の活性化につながることを期待する。地域福祉社会の実現では、住民参加型の移動支援活動を行う団体に継続的な支援を行う。地域住民の連帯意識が生まれ、地域で支え合う意識が高まるものと評価する。子ども・女性政策では、仕事と子育ての両立を図り、子育てしやすい環境の整備を引き続き要望する。綾瀬市型小中一貫教育を進めることで、児童が進学した際に新しい環境へ適応できず、不登校などにつながる事態を解消することに期待する。都市の質の向上では、災害時、速やかに防災証明書が交付できる体制を整えるためにドローンを購入する。小さな取り組みではあるが、大きな安心を与えるものと評価する。5つの政策を着実に推進し、継続と革新の基本姿勢を貫いていることを高く評価し、本予算に賛成する。(新国会)

●地域福祉社会の実現では、住民参加型移動支援事業として、移動支援活動に必要な経費への補助や、車両の貸し出しを行う。交通が不便な本市で、免許証の自主返納に伴い、市民の新たな交通手段を確保することは重要なテーマである。地域における担い手を支援し、綾瀬の奇跡といわれる元気高齢者のまちを市全域に広げていく取り組みに期待する。都市の質の向上では、綾瀬終末処理場消化槽設置に伴う汚泥減量化と消化ガス発電事業やイベントでのリユース食器の活用、農作物生産者への生分解性マルチの購入補助などに取り組む。地球温暖化の防止につながる大きな一歩であり、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)を体現するものと評価する。日本語教室の充実や行政通訳員の配置、やさしい日本語の全庁的な取り組みなど、多文化共生も推進している。特に、全ての小・中学校への自動翻訳機の設置は、日本語を理解できない児童や生徒にとって、気持ちのつながりから安心感が生まれるとともに、学習意欲を高める効果があると期待しており、共に生きる社会の実現に大きく寄与するものと評価する。人口が減少する中、さらなる活性化を目指し、市民の安全安心のために取り組むことを期待し、本予算に賛成する。(あやせ未来会議)

●骨髄などを提供しやすい環境づくりとしてドナーとドナーが勤務する事業所への支援が始まるが、すでに休暇制度

反対

●ある事業所は対象外となる。社会貢献への熱意をそぐこととなるため、全ての事業所への適用を求め、病児保育事業は、保育事業に参入したばかりの株式会社を運営することに反対である。幼児の安全や人権が守られるよう、市の責任を持った監督を求め、小中一貫教育は、新たな負担を教員に課すこととなるため、教員を増員し、全ての学級での少人数教育の実現を求

める。道の駅整備推進事業では、用地買収や実施設計など約7億円を計上している。総事業費は未定で、年間利用者数の根拠も曖昧であり、より実態に合う試算を行い、実施設計前に市民へ情報提供することを求める。重度障害者医療費助成事業は、65歳以上で新たに障がい者になった方には対象外となっており、年齢による差別の撤廃を求める。(日本共産党綾瀬市議団)

